

奥羽大学

【理念】

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

【目的】

奥羽大学は、教育基本法並びに学校教育法に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部その目的は、次の各号のとおりとする。

- (1) 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成することを目的とする。
- (2) 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成することを目的とする。

【教育目標】

薬学部

- ・医療人として必要なコミュニケーション能力、倫理観および豊かな人間性を涵養する。
- ・薬学の発展に寄与できる高度な専門知識および研究能力を習得する。
- ・国民の健康を守り、地域の保健・医療・福祉に貢献できる能力を研鑽する。
- ・患者および医療従事者に薬剤の適正使用に関する情報を提供できる能力を習得する。
- ・学問の進歩に対応できる柔軟な思考力と問題発見・解決能力を身につける。

本学薬学部における薬学教育

薬学部長 衛藤 雅昭

はじめに

激動する昨今の薬学教育界において、6年制薬学教育がスタートし、そして今春、その9回目の6年制卒業生を輩出しました。社会的に影響の大きい医療分野で、重要な役割を担う薬剤師の養成教育課程が大幅に改革されました。また、超高齢社会の到来に伴い、老人保健福祉、地域医療、在宅医療、社会保障等の分野においても、高度な専門知識を持つ医療従事者がますます必要とされています。

本学薬学部は、「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する」ことを目的としています。本学薬学部においては、一人でも多くの優れた薬剤師を輩出すべく、1年生から6年生まで綿密な教育計画を立て、現在以下に示すような方針で薬学教育を実行しています。

新カリキュラムの概要

平成27年度入学生より、新しいカリキュラム（教育課程）で教育が行われています。

最初に、簡単に薬学教育について説明をします。わが国の医療人教育（医学・歯学・薬学）には文部科学省の定めた「コアカリキュラム」と呼ばれる中心となる教育課程があります。これに基づいた教育を行うことで、大学に係わらず一定レベルの教育が実施され、その結果として医療人教育の質の保証がなされています。

さて、薬学教育で用いられる「コアカリキュラム」のことを「薬学教育コアカリキュラム」（以下、コアカリ）と呼びます。コアカリは薬学教育に対して文部科学省が定めている教育の基準であり、全ての薬学部・薬科大学がそれに準じたカリキュラム（教育課程）で教育を行わなければなりません。そして、薬学部・薬科大学のカリキュラムは、その時間数の70%でコアカリについて全て教育し、残りの30%は大学独自に実施するとされています。

平成27年度から新しいコアカリが実施されることになりました。その理由としては、従来のコアカリが平成14年に作成されていることから、その後の学問の発展や社会のニーズの変化に対応する必要が生じたこと、さらに、実務実習の充実を図り、医療人としての薬剤師を養成する教育を従来にも増して強化する必要が生じたこと、などがあげられます。また、文部科学省からは新コアカリの提示と同時に、薬学教育の最終ゴールとして、10か条の「薬剤師に求められる基本的資質」（453ページ参照）が示され、教育目標の最上位に位置づけられました。この結果、卒業時にはこれらの目標を、全ての薬学部・薬科大学卒業生がクリアしていることが求められることになりました。このような背景から、平成27年度4月から全国の薬学部・薬科大学で、一斉に新コアカリに基づいた新カリキュラムが実施されることになったのです。

本学では、新コアカリに準拠して上記の「薬剤師に求められる基本的資質」を身に付けるのはもちろんのこと、さらに教科目に独自の工夫を加えて今回の新カリキュラムを完成させました。

新カリキュラムの特徴は次のようにまとめることができます。

1. 基礎科学教育や薬学準備教育科目を充実させ、基礎学力の向上を目指した。
2. 一般教養科目を4年次まで選択可能とし、一般教養を涵養する機会を増やした。

3. 演習，チュートリアル講義を新設することで，単なる学力だけでなくコミュニケーション能力の向上を目指した。
4. 歯学部との同一科目での講義や演習を行うことで，チーム医療の大切さを学ぶことができる体制を整えた。
5. アドバンストコースを充実させることで，自分の目指す将来の薬剤師像にあった講義等を選択できるようにした。
6. 各学年末に総合演習（薬学演習Ⅰ～Ⅵ）を実施し，学年毎に当該学年の学力を保証する体制をとった。

なお，カリキュラムは学年ごとに詳細な説明が必要ですので，今後，進級に伴い，各学年のオリエンテーションなどを通じて理解してください。

最近では，平成30年12月～平成31年1月には，4年生に対して，改訂モデル・コアカリキュラムに基づくOSCE，CBTが実施され，平成31年2月25日から，改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習が開始されました。

奥羽大学薬学部3ポリシー

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

薬学部は、本学の目的と教育目標とに基づき教育課程を通じて、以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修得したものに学士（薬学）の学位を授与する。

1. 社会人としての教養と医療人としての豊かな人間性、高い倫理観、強い使命感を身に付け、患者の意向を尊重した態度で患者とその家族に対応することができる。
2. 多様な背景を持つ人と速やかに良好なコミュニケーションを取ることでできる能力を身に付け、患者、患者の家族、医療チームのメンバー等と信頼関係を築くことができる。
3. 医薬品・化学物質等の作用や性状、生体および環境への影響に関する科学的な根拠を理解・分析し、発信できる十分な知識と能力を有する。
4. 患者の様々な病態における医薬品の使用に際し、安全かつ有効な薬物療法の提案および評価を行うことができる。
5. 医療人として地域の特性を理解・把握・分析できる能力を持ち、多職種連携を通して、地域の保健、医療、福祉、健康増進に貢献できる。
6. 最新の薬学専門知識に基づく先進的薬物療法を患者に提供するために、生涯にわたって主体的学習を継続できるように自己研鑽に努め、次世代を担う人材の育成に取り組むことができる。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げる知識・技能・態度などの能力を修得するために、薬学部では以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 豊かな人間性と深い教養を身に付けるために、人文科学・社会科学・自然科学を広く学ぶことのできる教養科目を4年間にわたり随時受講可能となるように配置します。また、教養科目、医療薬学系科目、実務実習等により、6年間を通して医療に関わる専門家としての自覚と倫理観を醸成します。
2. 薬学の基礎を順次学修するために、「薬学教育モデルコアカリキュラム」に準拠した科目群を適切な時期に配置します。
3. 2年次からの本格的な薬学専門教育開始の準備のために、初年次に導入教育を開講し、続いて高度な知識・技能・態度を身に付けるために、薬学専門科目及び専門実習を履修します。
4. コミュニケーション能力と問題発見・解決能力を醸成するために、レポートによる文章表現や少人数グループによる討論(SGD)などによる能動的学修法を多学年にわたり取り入れます。
5. 保健、医療、福祉、健康増進を支援できる能力を養うために、1年次にチーム医療学演習等を、2～4年次に薬学系科目、衛生薬学系科目等を配置し、系統的に学修が進むようにします。
6. 薬物療法における実践的能力を養うために、2～4年次に薬学の基礎から応用・臨床に関する知識・技能を順序立ててバランスよく修得できるように科目を配置し、知識のまとめとしてSGDを用いた演習を実施します。
7. 5年次の実務実習では、地域及び社会が求めている医療を直接学ぶとともに次世代を担う薬剤師としての実践的能力や倫理感を養います。
8. 4～6年次の卒業研究では、薬学専門科目や実務実習の学修を総合的に活用し、科学的な思考能力、問題発見・解決能力、情報発信能力を高めます。

9. 医療の現状を見据えながら将来の医療を考え、また、学生の意欲や興味、将来の進路等に
応じられるよう、専門分野により特化した薬学や最新の医療、実践的なコミュニケーション
等を学修できる薬学アドバンスト科目を開講します。
10. 1～3年次では、各学年の学修の総仕上げとして薬学演習Ⅰ～Ⅲを履修します。また4～6
年次では、それまでに学修した全ての科目の集大成として薬学演習Ⅳ～Ⅵを履修し、薬剤
師として必要な、自発的且つ継続的な自己研鑽力を身に付けます。

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

本学の建学の理念は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」です。
薬学部では、その具現化のために薬剤師としての必要な知識と技術の修得だけにとどまらず、
他者とのコミュニケーションを積極的に行うトレーニングを通し、人間性と道徳観や倫理観を
育てていきます。また、進歩していく社会やニーズの変化に対応するためには、常に課題を探
究し、解決するまで研鑽し続ける力をつけることが必要となります。

本学部では、高等学校等における幅広い学習を通じて、次のような資質を備えた入学者を求
めています。

求める人物像

1. 国民の健康の維持・増進に役立ちたいという志を持っている。
2. 生命を尊重し他者を思いやる心を持っている。
3. 地域医療を支える意識を持っている。
4. 薬剤師という職業に魅力を感じ、その仕事に携わりたいという強い希望と意欲を持っている。
5. 薬剤師として、生涯にわたって自己研鑽を続けるための強い意志を持っている。

入学前に身に付けていることが望まれる知識など

1. 入学後の学修に必要な基礎学力(国語, 英語, 数学)を有している。
2. 高等学校までの理科3科目(物理, 化学, 生物)の中で1科目以上について、その内容を身に
付けている。
3. 基本的なコミュニケーション能力を発揮するための基礎的な知識・態度を身に付けている。

□入試種別アドミッションポリシー

●一般選抜

薬学部のアドミッションポリシーに合致する入学者を求めます。

●総合型選抜

アドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 高等学校での学習に限らず、課外活動や社会活動など様々な活動に対し積極的な態度で参
加している自らの活動実例を表現できる。

●学校推薦型選抜

アドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 高等学校で学ぶ基本的な学科目、特に理数系科目について、優れた学力水準にある。
2. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組むことができる。

●特待生選抜

アドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 高等学校で学ぶ基本的な学科目、特に理数系科目について、優れた学力水準にある。
2. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組むことができる。
3. 将来、薬剤師として指導的立場に立って社会に貢献したいという意欲を有する。

奥羽大学薬学部アセスメント・ポリシー（学修成果の評価の方針）

奥羽大学薬学部では、薬剤師として備えるべき能力をディプロマ・ポリシーに定め、その方針に沿って、「豊かな人間性を備えた薬剤師」を養成するためのカリキュラムを構成しています。一般教養科目、基礎教育科目、専門教育科目のカリキュラムでは、以下の方針に則って、認知領域（知識）、精神運動領域（技能）及び情緒領域（態度）を多面的に評価します。また、進級状況、卒業要件達成状況、薬剤師免許取得状況から学修成果の達成状況を評価し、教育課程全体の検証を行います。科目ごとの評価は、シラバスに提示した学修目標に対する評価と学生によるアンケート等の結果から、学修成果の達成状況を評価します。

1. 講義と演習のみの科目では、知識とその応用力を評価します。実習・実技を伴う科目では、技能、態度、コミュニケーション能力等についても評価します。
2. 実務実習では、知識、技能、態度、コミュニケーション能力に加え、倫理観が備わっているかを含めて評価にします。
3. 知識とその応用の評価は筆記試験、口頭試問、レポート等により、技能の評価は実習試験等により、原則として数値化して達成度を評価します。態度やその他の能力は可能な限り数値化できる方法を用いて達成度を評価します。
4. 総合的知識を評価するために、第1学年から第3学年では薬学演習Ⅰから薬学演習Ⅲを行い、第4学年では薬学演習Ⅳに加えてC B Tを行います。またO S C Eで技能・態度を評価します。第5学年は実務実習を評価し、薬学演習Ⅴで総合的知識を評価します。そして第6学年は薬学演習Ⅵを行い、達成度を評価します。
5. 進級あるいは卒業の判定に用いる統括評価に加え、到達目標に至る道程を明らかにするために形成的評価を随時行います。
6. GPA（Grade Point Average 履修科目成績平均値）による成績評価法で、学生個人および科目の達成度を評価します。
7. 科目の統括評価は出席日数が授業時間数の3分の2以上の学生を対象とします。
8. 再試験および追試験の要件、進級および卒業の要件は年度当初に明示するとともにシラバスに記載します。
9. 各種試験および進級・卒業に関する学生からの照会に応じる体制を整備します。